

## 斜里岳(1,547m)における山のトイレ及び携帯トイレの問題について

松尾 英樹 (2011年清岳荘管理人)・山下 健吾 (NPO法人きよさと観光協)

斜里岳は、6月中旬から10月初旬において、5～6千名の登山者が全国から訪れる。主な登山口となる清里町側(沢コース)には宿泊施設も伴った清岳荘(男"大"1、"小"3、女3の合併浄化処理槽水洗トイレ)があり、ほとんどの登山者は、その施設内トイレを利用してからの登山をしている実態にある。その利用量は、トイレトペーパー利用量にて80ロール程度にのぼる。

一方、携帯トイレも施設内にて販売しており、その販売数は169(前年110)、下山後の管理人手回収は111(前年92)であり、販売の看板設置や回収の声かけ周知は行っているものの、その利用は登山者全体の約3%程である。その傾向として、百名山をめぐられる登山者やガイド付きツアー登山者にその利用意識傾向は高く、地元登山者には低い印象がある。

(携帯トイレの販売価格は400円、回収は一つ100円の負担をお願いしている)

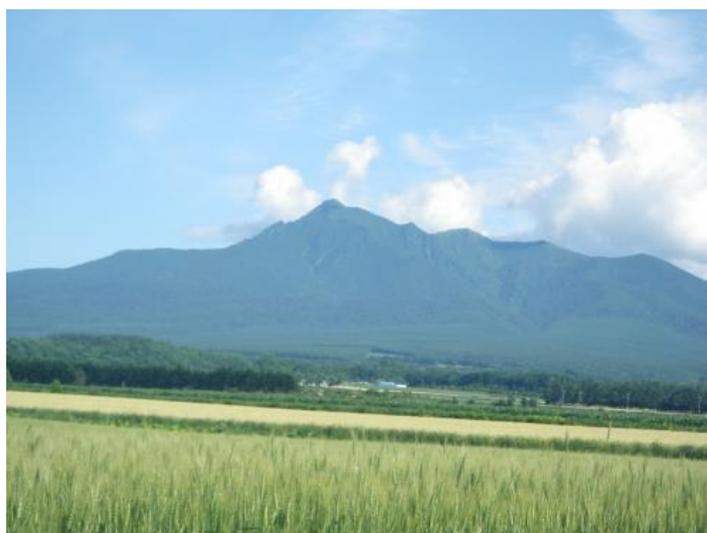
また登山道へ入る以前に駐車場での車中泊者による敷地内への無分別な用便の問題も発生している。

登山道上では、下二股、上二股、馬の背といった主な休憩地点での山のトイレ問題が発生し、山岳関係者からも強く指摘されている。

回収ボックスの設置については、百名山めぐりされている登山者から設置要望はあるも、現在、約3%の登山者への普及段階ではまだ単なるゴミ箱として利用されかねず、さらなる利用普及啓蒙やトイレブースの課題などを連携、計画的に進めてゆく必要があると考えている。

これらのことはきよさと観光協会、東オホーツクガイド協会、清里町役場など関係機関による直近の課題である。

斜里岳の姿



清里町 斜里岳（沢コース）登山口 清岳荘



回収した携帯トイレ（まとまった段階で町処理施設にて適正に処理）

